

2024年12月24日

① 伸銅品生産量の調整傾向が続く

1～11月の伸銅品累計生産量は、前年同月比微減となり、累計59万トンで、前年同期比▲0.0%となった。暦年の生産量は64万トン程度の見通しである。エアコン向けが回復基調で、自動車関連向けが好調レベルには届かず、それ以外の分野で特に建設関係は伸銅品需要が停滞した。

② 銅相場は高止まり

銅の国際相場は、米国金利政策や中国の景気指数により小幅に上下したものの、本年各月のLME月平均価格は9,000\$台から1万\$強での動きとなった。年末にかけては米国大統領選挙の結果などのドル高の進行により、銅価格は値を下げている。尚、亜鉛相場も本年は2,500台でスタートし、3,000\$近辺で推移している。

③ 銅使用製品の盗難が相次ぐ

日本伸銅協会では、昨今の銅価格上昇に伴う銅使用製品の盗難問題について、2024年11月20日付けで、一般社団法人日本電線工業会と連名にて経済産業省・警察庁へ盗難対策強化のお願いの申し入れを行った。

④ リサイクル率算出の計算式を定義

日本伸銅協会では、年初から「リサイクル率検討ワーキンググループ」を立ち上げ、伸銅業におけるリサイクル率の考え方を整理し、リサイクル率を算出するための計算式を定義した。リサイクル率を求める際に重要な「製品量」の考え方や、リサイクル原料として扱う自家発生屑の範囲を決める「同一工程」に対する考え方の整理を行った。

「製品量」については顧客へのアウトプット量ではなく、「製品量＝溶解鑄造量－自家発生屑」と定義した。また「同一工程」については、「溶解鑄造工程のみ」のパターンと「伸銅品製造工程全体」のパターンの2つを定義し、それぞれリサイクル率算出のための計算式を定義した。

⑤ 設備保全担当者のネットワーク会を発足

より効率的で効果的な「設備保全に関する情報の共有を図るための仕組み作り」活動として会員社を対象に、2024年11月に設備保全担当者のネットワークの会を発足した。

（当初の参加者は11社20名でスタート）。

保安全管理方法の共有化、部品・予備品の共有化、要員体制・教育方法の共有化や設備対応メーカーの外注工事業者の共有化などがテーマ案として挙げられている。

⑥ 「伸銅品」のPR活動の推進

日本伸銅協会では、伸銅品の低炭素社会に欠かせない「伸銅品」の認知度を上げるための活動を推進している。

幕張メッセで開催された高機能金属展の出展では伸銅協会専用でのブースを設置し、銅の高機能のPRを行った。一方で経済産業省霞が関子供デーへの参加をはじめ、日本銅センター主催で科学技術館での初めて実施された『銅の日イベント』では、銅箔による折紙体験など体験型企画を通じ、お子様から大人まで幅広い層へPRをおこなった。

また、銅のすごい力を調べてみよう！～夏休み自由研究コンテスト～への協賛も行った。

今後も伸銅品の認知度を上げる取り組みを図っていく。

⑦ カーボンニュートラル行動計画

経済産業省及び日本経済団体連合会団連のカーボンニュートラル行動計画の2024年度フォローアップに対応した。2023年度実績は、参加企業数19社、CO2排出量50.8万トン-CO2であり、目標に対する進捗率は72%であった。

⑧ 銅及び銅合金リサイクル原料調査報告書（増補版）の発刊及び販売開始

前年度事業のマテリアルフロー調査の結果を踏まえ、2015年度に出版した報告書の増補版にとりまとめ9月に発刊した。サーキュラーエコノミーの機運上昇により、多くの方に購入いただいている。（報告書の解説動画を含め伸銅協会のHPから購入可能となっている）

⑨ 日本銅学会第64回講演大会開催

日本銅学会第64回講演大会が10月18日～20日の3日間、栃木県宇都宮市の「ライトキューブ宇都宮」にて開催された。

今大会での講演発表件数は、テーマセッションも併せて90件と過去最高であった。

また、式典では第 58 回論文賞の授賞式及び 2024 年度名誉会員の推戴式が執り行われた。

⑩ IWCC テクニカルセミナー 2024 がイタリア・ミラノで開催

IWCC テクニカルセミナーが 2024 年 2 月 25 日～2 月 29 日の 5 日間、イタリアのミラノにて開催された。

セミナーは 2 月 26 日と 27 日の両日で行われ、28 件の講演があった。残念ながら、今回は日本国内からの発表は 1 件のみであった。

2 月 28 日の工場見学は二班に分かれ、それぞれ① Eredi Gnutti Metalli（黄銅棒メーカー）及び② Mino SpA plant（圧延機メーカー）を見学した。翌 29 日には、全員で KME の糸工場の見学を実施した。

以 上